

I 実践

1 研究テーマ

「差別や偏見をもたない児童を育成するための実践の工夫」

—自分の大切さとともに、みんなを大切に—

(1) 主題設定の理由

本校の児童は、元気で明るく素直である。しかし、些細なことから友だち同士でのトラブルになる等の軽はずみな行動が見られることがある。これらは、学級や友だち同士の人間関係の希薄化、コミュニケーション不足、家庭での道徳性の低下などの原因が考えられる。

そのため、まず、学校教育においては人権の知識理解をいっそう深めるとともに、児童一人一人が人権感覚を十分に身に付けるための指導をいっそう充実することが必要である。

さらに、人権教育が目指すものを明確にし、教職員がこれを十分に理解して計画的に進めることが重要である。

そこで、本校では、今年度も自他を大切に、差別や偏見をもたない児童の育成を研究主題とした。

(2) 研究のねらい

学級を基本としながらも、「差別や偏見をもたない児童の育成」には、学校教育全体で取り組むことが重要と考える。そして、自分を大切にすることにより、自他を認め合う力を付ける支援をし、人権教育の啓発・差別や偏見のない児童を育成することである。

学校の教職員の研修を行うことにより、児童の一人一人についての特性の理解を深めるとともに、人権についての理解と啓発を促し、学校全体で児童の人権教育にあたる。

2 実践例

(1) 学級活動の指導例から

低学年の1・2年生では、小学校への入学・学校生活の始まりという観点ではとても大事な学年である。人権を尊重する教育として具体的に友だちや自分の良いところをワークシートに書いたり、学級で話し合ったりしていじめや平等・偏見のない友だちの接し方をスキルとして学習を続けてきた。例えば、「友だちに対して優しくしよう」などの意味合いの題材を用意して、みんなの感情・気持ちを話し合いソーシャルスキルとして、どのようにして友だちに接したらいいのかを考える指導をしてきた。また、「ごめんね」「ありがとう」という機会を見逃さず、きちんと言うことができたかどうかを問いながら、一人一人の児童にその大切さを指導してきた。その結果、「ごめんね」「ありがとう」というコミュニケーションスキルを多く練習した。「ごめんね」「ありがとう」という「あったかことば」を家庭や学校で実際にいろいろな人に言える実践力が高まった。

(2) 人権ビデオ視聴から

児童は、今年も1学期に人権ビデオを視聴した。特に、いじめや思いやりに関する内容のものであった。題名は「きずだらけのリンゴ」(3～6年)と「ねずみくんのきもち」(1・2年)の2本を視聴した。耳からの音声理解が苦手な児童には、視覚的に理解することができたと思う。アニメーションのビデオであり自分の身近な出来事のようにとらえることができた。児童は、どの学級でも静かに真剣に視聴できた。それだけみんなの周りに同じ事があるのだと思うと、共感できたのだと思う。児童は「いじめ」や「嘘をつくこと」は悪いことだという感想をもち、友だちに対して「思いやる」という人権意識が高まった。

1年生の児童の多くは、ビデオの視聴後に喧嘩ばかりしていたネズミ君とネコ君が思いやりの行動を通して「さいごになかよくなれてよかったです。」という感想を書いた。自分だけの考えではなく、多くの級友の感想を聞き、級友の感想を自分の行動に役立てようとしていることが良いところだと思う。

(3) 校内研修の取り組み(本校の教職員に対して)

本校では、毎年の夏季休業中に人権教育の研修を位置づけている。今年は、8月6日の市人権研修で行われた講演をビデオに収録しました。そのビデオと資料を久慈小の職員分印刷して、8月9日にパソコン室にてビデオを映写しながら、大事な事項については補足説明しながら研修を行った。

実際の講演をした先生の画像と言葉を映すことにより、より研修の臨場感と緊張感をもった研修ができた。先生方は、資料にメモを取りながら真剣にビデオを見入っていた。「人権教育」や「いじめ」等に特に意識を高くもち、児童の教育にあたっていることを感じた。

人権の知識・人権感覚を高くもって児童の育成にあたる教師として、人権教育の大切さを今後もより工夫して校内の先生方と一緒に研修を重ねて実践していこうと考える。

II 研究の成果と今後の課題

人権教育についての実践から、各学級の活動や道徳の時間に、「友だちとどう触れ合うか、自分はどうか行動したらいいか。」等、自分と友だちとの関係を深く考えることを多く取り上げて指導してきた。その結果、自分のことをよく知った上で、友だちに対しても言われたら嫌なことやされたら嫌なことを多くの児童が自覚してきた。人権感覚の成長が見られるようになってきている。

さらに、人権ビデオの視聴を通して、視覚的にいじめや偏見をもつことはとてもいけないことだということを理解できたと思う。さらに、児童に対しては人権教育を意識的に取り組み、「いじめはいけないこと、人を傷つけることは悪いこと。」というように人権意識を高められるようにしたいと思う。友だちに対しての思いやりや協力性の高まりが身に付き、行動にも一段と表れてきている。

人権教育は、学校全体や全児童を対象として生活の中で行う必要がある。よりよい人権感覚をもつことで人間関係がよりよくなっていくものである。これからも継続的に振り返りと指導をしていくとともに、学校だけでなく地域や保護者にも協力してもらい、人権教育の理解と啓発を広めていきたい。

III 人権コーナーの設置の様子

人権コーナー・掲示板・環境面で・・・各学年の感想を書いてもらい掲示してあります。

